

目の肥えた日本のコレクターにベルトゥーを見せたかった

三田村優:写真
Photograph by Yu Mitamura
広田雅将(本誌):取材・文
Text by Masayuki Hirota (Chronos-Japan)

「それは考えていません。ベルトゥーはニッチなブランドです。仮に数を増やすとしても、30本から100本が限界でしょう。ただし、次はトゥールビヨンではない、洗練された時計を作りたいです」

彼は明かさなかったが、おそらくは、以前話していたシンプルな3針時計ではないだろうか？

「もちろん、すべてのベルトゥーはクロノメーターですよ。クロノメーターでなければ、ベルトゥーではありません」

「日本は時計市場におけるひとつのセンターだと思っています。日本には多くのコレクターがいて、彼らは知識と情熱を持っています。だから、日本のコレクターに直接紹介したかったです」。

しかし、わざわざ日本でイベントをやるぐらいだから、今後生産本数を増やす予定なのか？

Karl-Friedrich Scheufele

カール-フリードリッヒ・ショイフレ

meeting

2

ショパール共同社長兼クロノメトリ・フェルディナント・ベルトゥー社長。1958年、ドイツ生まれ。15歳でスイスに移住し、HECローザンヌ校に入学。卒業後、ショパールに入社。1988年にミッレ ミリアコレクションをスタートさせたほか、96年にはフルリエに工房を設立し、自社製ムーブメントの製造も開始した。2015年、偉大な時計師、フェルディナント・ベルトゥーの名を冠したタイムピースを発表。

クロノメトリ・フェルディナント・ベルトゥー
クロノメーター FB 1R
“エディション 1785”

1788年に沈んだフリゲート艦から引き上げられた六分儀にインスピレーションを得たモデル。緑青の吹いたブロンズケースを採用するため、それぞれが異なる表情を持ち、ユニークピースのように自身だけのモデルとして楽しむことができる。手巻き (Cal. FB-T.F.C.R-2)。49石。2万1600振動/時。パワーリザーブ約53時間。直径44mm。30m防水。世界限定5本。予価3075万円。



ショイフレの特長は、粘り強さにある。「現在、ベルトゥーの時計は、フルリエにあるショパール マニファクチュールで作っています。とはいえ、別途ワークショップを設けて、LUCとは完全に切り離しています。今のところ、同じ建物で作っていますが、いずれ独立させる予定です」

つまりどういうことか？

「実は、ベルトゥーが生まれ育ったフルリエに、彼が過ごした時代である18世紀の家を買ったのです。ベルトゥー自身が住んでいた家ではありませんが、年代は同じです。そこに工房を移す計画があるのです。もっとも、今は何もない状態なので、実現には3年はかかりそうです」

そもそもショパールはファミリービジネスのため、長期的に経営を考えられる。彼が「株主の顔を見ていたら、LUCは作れなかった」と語る理由だ。加えて、彼の粘り強さが、LUCに成功を与え、また、ベルトゥーというニッチなブランドを離陸させようとしている。

「ベルトゥーも、次の2年で黒字化するでしょう」。彼が語るのだから、間違いなくそうなるに違いない。ショイフレは、徹頭徹尾、有言実行の人なのである。